

## 開倫塾日本語学校の果たすべき役割

—外国人材が大活躍できる地域づくりを目指して—

開倫塾日本語学校

理事長・校長 林明夫

(開倫塾 塾長)

### 1. はじめに

- (1) 2012年に第2次安倍内閣の日本への留学生35万人計画の発表に接し、1979年に開倫塾という学習塾を創業して以来、いつかはきっと日本語学校を経営したいと思っており、「時は、今」と開倫塾日本語学校の設立を決意。
- (2) スタッフの懸命な努力で、2019年に開倫塾日本語学校の設立認可を法務省から頂きました。厳しいコロナ禍を経て、ようやく、定員80名の留学生をお迎えすることができました。
- (3) 開倫塾日本語学校の果たすべき役割とは何か。日本語能力検定試験5級(N5)を母国で取得した後、日本の大学、専門学校など高等教育機関への進学を果たすために、日本語能力検定試験2級(N2)以上の合格を目指す。これが、日本への留学生の日本語教育が第一目標です。
- (4) このように、大学などの教育・研究に耐えられるだけの日本語能力を身につけると同時に、日本での生活に必要なコミュニケーション能力や、日本での様々な場面での円滑な生活の方法などを少しずつ身につけることも、大切にしております。

### 2. 留学生はやる気に満ち溢れています

- (1) 更には、留学生によくお話を聞くと、日本の大学や専門学校を卒業後、日本の企業や様々な団体に就職、知識や技能を身につけ、日本に住み、御家族も日本に呼び、いっしょに暮らしたい留学生がたくさんいます。
- (2) また、日本で起業、同じような仕事を母国や周辺諸国で行い、事業化したいと本気で考え、起業家精神に満ち溢れた留学生も数多くいます。
- (3) 留学生の多くは、開発途上国出身の方々ですので、高校や大学の教育をすべて英語で受けている留学生も多く、英語に精通し、母国語・英語・日本語の3か国語を使いこなす起業家精神に満ち溢れた人材は、これからの日本の中堅・中小企業や地域社会の発展のために欠かすことのできない、現代版「金の卵」と考えます。

### 3. 留学生の「成功の実現」と地元企業・団体の発展のために

- (1) そうであるならば、開倫塾日本語学校はじめすべての日本語学校の現代社会における役割とは、単に、日本語能力検定試験2級に合格させ、大学などに進学を果たすだけでなく、留学生の日本でのキャリア形成と地域の発展、日本の発展、留学生の母国や国際社会の発展のために、留学生の潜在能力を最大限伸ばし、自己実現を支援することも大切かと考えます。
- (2) 地元には、よく探せば特色ある優れた大学・専門学校がたくさんあります。また、留学生が

潜在能力を発揮でき、仕事を通して自分の夢や希望を実現できる、つまり、「自己実現」できる企業や団体がたくさんあります。後継者不足で廃業まで考えている、特色ある技術や伝統のある中堅・中小企業がたくさんあります。

(3)そこで、まずは、日本語学校に在学中に、日本や地域の歴史や伝統、特性、素晴らしさを学ぶ。同時に、地元大学、地元専門学校、地元企業や団体について職場見学、できれば「One Day インターンシップ」などを体験させ、「地元大学、短期大学、専門学校、専修学校、大学院などへの進学」「地元の企業や団体への就職」「地元での起業・事業継承」を促進したく考えます。

(4)また、正規の留学生への日本語教育に加え、地域に住む外国出身の方で、留学生と全く同じコース・カリキュラムで本格的な日本語を学ぶ「聴講生」の制度を充実。開倫塾日本語学校はもちろん、開倫塾の各校舎でも本格的な日本語教育を実施したく考えます。

#### 4. 開倫塾日本語学校の課題

(1)この実現のために、現在の定員「80名」を1.5倍ずつ増員、120名、180名、270名、405名、ゆっくり時間をかけ、ゆくゆくは、500名規模の本格的な開倫塾日本語学校の実現を図りたく考えます。

(2)今後、技能実習制度が改められ、日本語能力試験5級、4級、3級の取得を奨励し、外国人材の定着・キャリア支援を図ることを目指す企業・団体が増加すると思われれます。そこで、企業内・団体内での日本語講座開設を、全面バックアップさせて頂く事業を全面展開したく存じます。

(3)そこで、開倫塾日本語学校で最も重要なのは「日本語教師」の育成です。ちなみに、足利市にある日本最古の学校「足利学校」では、かつて、全国から、学僧(学問の僧)が3千名集まり、儒教や易学の勉強に励み、全国各地のお寺に帰り、寺子屋を開いたと伝えられています。

(4)この足利学校の歴史と伝統を踏まえ、開倫塾日本語学校では、ゆくゆくは、日本語教師研修コースを設け、「日本語教師」3000名の育成を目指します。全国の日本語学校や日本語教室、小・中・高校・大学・専門学校、企業や団体、世界各国の大学や専門学校、日本語学校や日本語教室で日本語を教える日本語教師の教育に励みたく存じます。

#### 5. おわりに、「教え方日本一」の日本語教師育成を目指して

(1)1979年創業、小学生・中学生・高校生を教え続けて、2024年10月で創業45周年を迎える開倫塾の行動方針は「教え方日本一」です。誰が教え方日本一であるかを決定するコンテスト、「全国模擬授業大会」開倫塾主催 白鷗大学足利高校様や足利大学附属高校様などの校舎をお借りして行い、お陰様で、本年5月26日(日)の大会で第17回を迎えます。

(2)開倫塾日本語学校も「教え方日本一」の日本語学校を目指します。ゆくゆくは、「教え方日本一」の日本語教育を競い合う「日本語教育版全国模擬授業大会」を内外の日本語学校の先生方とともに開催したく存じます。

(3)また、開発途上国での日本語教育促進のため世界各国に日本語教師を派遣すると同時に、ゆくゆくは、日本語学校や日本語教室も開設したく存じます。グローバル・サウス・アフリカを含むアフリカ54か国や、グローバル・サウス・インドとよばれるインド、バングラデシュ・

パキスタンなどの大学や学校に日本語教師を派遣し、日本語学校・日本語教室を開設、日本語教育のグローバル化のお役に立ちたく存じます。

(4)最後に、国連の第 7 番目の公用語として「日本語」を加えることを提言いたします。国連はじめ世界各地の国際機関、NGO・NPO、企業・団体で、英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、アラビア語とともに、日本語を用いてコミュニケーションをする人口を戦略的に増加させる言語政策が大切だからです。

(5)一人の語学教師が年間 40 名の生徒を担当するとすれば、30～40年で1200～1600名担当なさいます。3000名の日本語教師を育成することは、360万～480万人の日本語教育を担うことを意味します。日本語教師教育の重要性は計り知れません。日本には1万名以上の日本語教師が必要ですので、その一翼を担いたく思います。

○日本最古の学校「足利学校」にならい、栃木県足利市を日本語教育と日本語教師育成の「学問的中心」にしたいと存じます。

(2024年4月1日)